

2013 ARRS (American Roentgen Ray Society Annual Meeting)に

参加して

廣瀬 靖光

今回私は 2013 年 4 月 14 日～19 日に行われた ARRS Annual meeting に参加させて頂きました。ARRS は数カ国の放射線学会と連携しており、各国学会の受賞演題を招待 (Cypos 形式) しています。2012 年の日本医学放射線学会総会で Silver Medal を受賞した私も喜んで応募しました(プチ自慢)。

今年の学会はアメリカのワシントン D.C.で行われました。ワシントン D.C.はアメリカ合衆国の首都であり、同国東海岸、メリーランド州とヴァージニア州に挟まれたポトマック川河畔に位置しています。金融センターとしても高い重要性を持っており、首都としての機能を果たすべく設計された計画都市でもあります (Wikipedia からの引用です)。今回はいろいろ指導して頂いた甲斐田先生と同行しましたが、何ととっても私にとって初めての国際学会です。何事も人生の初体験というものは緊張するものですが、自分の成長に繋がります。

ワシントン D.C.への道のりは予約の都合上、福岡空港から成田へ、成田からシカゴへ、シカゴからワシントン DCへと2回の乗り継ぎが必要でした。成田からシカゴまで約 12 時間。シカゴで入国審査を行いました。三回目の海外である私にとって入国審査は大難所です。自分の順番が近づいてく



ると心臓の鼓動が高なります。私は一歩、また一歩と審査官に近づいて行きます。審査官の前に行くまでの 3 秒間が私には 3 時間にも感じられたのは偶然ではないでしょう。審査官からの第一声、、、【コンニチワ】。。私は思わず顔を挙げました。二言目は【目的は観光?】と間違いなく日本語で聞いています。緊張感から解放された私は満面の笑みで【Year!!】となぜか英語で答えていました。その後の質問も日本語で話してくれ、私はその度に笑顔と【Year!】との答えを繰り返していました。

無事にホテルについた我々はホテル周辺を甲斐田先生と散策することとしました。ワシントン D.C.は首都ではありますが立法、行政、司法の機能だけが存在しており、必ずしも大都市ではありません。それだけにビジネスタイムを過ぎると場所によっては治安が悪く、そういった場所は必ず知っておく必要があります。当日はすでの夕方だった

ので Union Station, 国会議事堂などのホテルから近い場所を回り, 夕飯も少し早めに散策中に見つけた店に入ってみました。入ったのはいいですが, メニューが来ると料理名がほとんど読めない。。ここで忘れもしない 2 人の会話を再現してみましょう。廣瀬(私);【甲斐田先生, なんかメニューおかしくないですか?】甲斐田;【なんの料理か全然解らないね】甲斐田;【あ!!なんかタコスとか書いてあるよ】廣瀬;【先生, ここってメキシコ料理じゃないですかね?】。。2 人がメキシコ料理と気付いた頃には可愛い美人ウェイターが水を持ってきてくれ, 帰れなくなっていました。まさかアメリカ上陸の一発目の食事がメキシコ料理だとは。2 人とも食事の内容が解らないので雰囲気注文してみました。甲斐田先生はウェイターにお勧めを聞いてから違うメニューを注文していたのを僕は見逃しませんでした。しばらくして料理名も解らないメキシコ料理が運ばれてきました。なんとか私の大好きな肉料理の注文には成功しましたが, 何の肉か解らないうえに, アメリカ人向けに味付けしてあるメキシコ料理は我々日本人には刺激的すぎました。あの甲斐田先生もみるみる口数を減らし, 初日の食事を静かに終えました。



ジェファソン記念館



桜祭りでの甲斐田先生

翌日は学会の合間を全米桜祭り(National Cherry Blossom Festival)に行ってみました。桜祭りとは 1912 年に東京市長(当時)からワシントンに桜が寄贈されたことを記念し, 毎年行われています。桜は Tidal Basin や Washington Monument 周囲に植えられており, 大体 1 時間程度で一周できます。我々が訪れた時, 雲ひとつない快晴, 祭り最後の日とあって多くの人々が桜を満喫していました。私は桜の本場の人間であるという厳しい目で臨みましたが, アメリカの桜も想像以上に素晴らしく, ふと気付くと桜の香りが長旅で疲れ切った 2 人の体を優しく包んでくれていました。その後 subway を使用し, スミソニアン博物館に行きました。Subway も安全に使用できる移動手段であり, 最初は切符の買い方にかなり戸惑いますが, 我々の後ろの中年黒人男性が優しく教えてくれたの

で助かりました。スミソニアン博物館はアメリカを代表する博物館群であり、2009年公開の映画「ナイト ミュージアム 2」は、このスミソニアン博物館が舞台となっています。非常に大規模であり、到底一日で回れるところではありませんが、運営は国の財源および寄付などで行われており、入場料は基本的に無料です。一つ一つの博物館自体も大きく、展示数も非常に多いため我々は学会の終わりに数日行くことにしていました。

この日の夕方は前日の反省を活かし、ホテルの人にステーキの美味しいお店を予約してもらいました。アメリカに行った事がある方はご存じと思いますが、アメリカの料理はとにかく量が多いです。博物館にしても料理にしても日本とは規模が違いすぎます。しかし、肉料理が大好きな私は、甲斐田先生の制止も聞かずにサーロインステーキとチキンサンドイッチをオーダーしました。チキンのサンドイッチといってもものすごく大きいチキンが入った特大のサンドイッチ、そのとなりに大量のポテトも積まれています。もう一つの皿には大きなステーキに大量のマッシュポテトが添えられていました。甲斐田先生の目の前には大きなステーキとそのステーキより大きなイモをそのまま焼いた焼き芋みたいなものが乗せられています。日本男児の意地を見せるべく食事を始めましたが、とにかく量が減りません。Tableの上はどこを見ても肉とイモに埋め尽くされています。アメリカ人は毎日こんなに食べているのかと気が遠くなりましたが、周りを見回しても肉とチキンを両方頼んでる人は見当たりません。。甲斐田先生から【僕も食べるの手伝うよ】と心強い言葉を頂きましたが、それから数分後には店員さんに【I'm finished!】と言っているのを英語が苦手な私でも聞き取れました。そこから私の孤独な戦いが始まります。目の前には相変わらず肉とイモの山です。私の頭の中のもう一人の私が聞いてきました。【あなたはなぜそんなに食べるのですか?】と。私は【そこに肉があるからです】と答えていました。私は疲れきっていました。かつて肉とイモにこれ



発表の電子ポスター前で

ほど追い込まれたことはありません。私も私の意志とは無関係に【I'm finished】と言っていました。それは甲斐田先生の一言から数分後の出来事でした。またしても私はアメリカの規模の大きさに圧倒されたのです。

その翌日は学会会場のテレビの前で多くの人々が集まっていました。この日はボストンマラソンが行われおり、ゴール付近で爆発がおきたのです。そうです。あのテロ事件の時に私達はアメリカにいたのです。学会会場内のテレビでも繰り返し同情報が流れていました。それ以降私達はGray Line tourでU.S.

Capital building やホワイトハウスに行ったり、Lincoln Memorial など観光しましたが、この事件の前後ではセキュリティの厳しさが全く異なり、警官・警備員もピリピリしていました。日頃の日本がいかにか安全で治安がいいのかと実感する出来事でした。

さて、観光と食事の話ばかりでしたので学会の話を少し。学会ではPET-MRIやCT

colonography など私にとって興味深い演題がたくさんあり、非常に勉強になりました。日本でいう教育講演的な演題も多く、解りやすい解説もたくさんありました。この経験を今後を活かせればと思っています。初めての国際学会でしたが、いろんな意味で非常に刺激を受けました。また、機会があれば国際学会に参加させて頂ければと思い、日々のモチベーションに繋がっています。



Tidal Basin と Washington Monument



何回もお世話になった Union Station ;
Gray Line tour もここから出発します